テキストマイニングによる大学生の学びのニーズの分析

阿濱　茂樹[*1]
Email: ahama@yamaguchi-u.ac.jp

*1：山口大学教育学部

◎Key Words 学びのニーズ，テキストマイニング，共起ネットワーク，大学教育

1.　はじめに

大学における教育・研究活動では，就業力の向上や職業的自立を目指すとともに，社会的な認識力の向上および社会的自立・生活の自立などを促進し，総合的で長期的な生きる力を高めつつ教育活動を行う社会的要求が高くなっている。また，大学教育における修学支援のシステム開発やカリキュラム開発の高度化も求められている。

これまでにも，キャリア教育の視点で就業力育成の実践が取り組まれており，学修支援のシステム評価の研究も行われている。さらに，大学におけるカリキュラム内での学修と課外の学修についての比較研究も行われ，大学教育の質の向上に対する探究が着手されつつある。

しかし，学びの当事者である大学生は，大学生活や大学での授業に対して様々な意識をもって就学しており，カリキュラムを提供する大学教職員等のコンセプトとは差異がある場合もあると考えられる。これまでは，大学でのカリキュラムは，提供する側が，高等教育機関の役割を盛り込んだものが主流であったが，学習者の学びのニーズをくみ取りながら見直す必要があると考えられる。

そこで，本研究では，大学生が抱える潜在的な意識や要求との関連性をデータマイニングアプローチにより分析し，中長期的な視点でキャリア形成を支援するモデルの検証を試みる。

2.　学びのニーズの把握

2.1　大学生の学びのニーズ

今日の大学では，アドミッションポリシーなどで明示された学修目標が掲げられており，教育に携わる教職員は共有されている前提であるが，所属する学生はそれぞれの志望や学習意欲をもち，それらは必ずしも一致するとは言えない現状である。

本研究では，学習者が自ら学びたいと考える事項を探索的に調査・分析することを目的に，自由記述で得られた文章をテキストマイニングすることとした。

2.2　意識調査

学生の大学における学修に関する意識や要望を把握するためにアンケート調査を実施した。質問の内容は，「大学生活の中で学びたいこと」および「大学の授業で学びたいこと」とした。

アンケート調査は下記の要領で実施した。

調査時期：平成 26 年 4 月
調査対象：国立大学教員養成学部初年次学生 57 名
調査方法：質問紙法（自由記述）

3.　テキストマイニングによる分析

3.1　分析方法

大学における学修に関するニーズを分析するために，本研究ではテキストマイニングを行った。分析方法は，KHcoder を用いて頻出語彙を抽出し，それぞれの語彙の関係性を明らかにするために，共起ネット―ワーク分析を行った。

3.2　分析結果

「大学生活の中で学びたいこと」では，頻出語を抽出したのち，関係する語句の関係を明らかにするのに共起ネットワーク分析の結果を図 1 に示す。

「大学生活の中で学びたいこと」の共起ネットワーク分析では，12 個のカテゴリーの表出が見られた。代表的なカテゴリーの特徴を以下に示す。

「社会」から「出る」，「マナー」などの“社会生活”に関する言葉の集合がみられた。また，「人間」や「関係」などの“人間関係を築く”ことに関する言葉の集合がみられた。さらに，「幅広い」や「コミュニケーション」などの“コミュニケーション能力”に関する言葉や，「知識」や「専門」，「ボランティア」，「活動」など“専門知識を活かしたボランティア活動”に関する言葉にも集合が見られた。

「大学の授業で学びたいこと」では，頻出語を抽出したのち，関係する語句の関係を明らかにするのに共起ネットワーク分析の結果を図 2 に示す。

「大学の授業で学びたいこと」の共起ネットワーク分析では，8 個のカテゴリーの表出が見られた。代表的なカテゴリーの特徴を以下に示す。

「学ぶ」や「授業」，「専門」など“専門分野に関する授業”に関する言葉の集合がみられた。また，「一般」や「教養」，「役立つ」といった“一般教養” に関する言葉の集合もみられた。また，「パソコン」と「活用」，「教職」といった“パソコンを活用することができる教員”に関わる言葉の集合も見られた。

4.　考察

「大学生活の中で学びたいこと」に対する共起ネットワーク分析の結果によると，社会生活をするうえで

必要なマナーや振る舞いについて学びたいという意識があることが推察される。また，大学生活の中でサークルなどを通じて人間関係を築きたいという意識もあると思われる。さらに，専門的な知識を活かしたボランティアに参加し，コミュニケーション能力を身につけたいという意識もあることが明らかになった。

「大学の授業で学びたいこと」に対する共起ネットワーク分析の結果によると，社会で役に立つ専門分野の学習をしたいとともに，一般教養も役に立つと考えていることが推察される。また，パソコンなどを活用した授業ができる教師になるために学びたいという意識もあることが推察される。

5. おわりに

本研究では，大学における学修の当事者である学生の学びのニーズを把握することを目的に，自由記述でアンケートを実施し，得られたキーワードをテキストマイニングによって分析した。

その結果，大学生が大学生活や大学の授業に期待する要素を明らかにすることができた。

謝辞

本研究は第 11 回（2013 年度）生協総研賞「助成事業」を受けたものです。

参考文献

(1) 大角　玉樹：就業力育成支援事業の現状と課題：キャリア・コンシェルジュ支援体制構築への取組み，琉球大学経済研究(83), pp83-103,(2012)

(2) 半田 智久：学修支援の情報やシステムに関する大学生のニーズ調査報告，高等教育と学生支援，お茶の水女子大学教育機構紀 Vol.3 pp66 -83,(2013)

(3) 溝上 慎一：「大学生活の過ごし方」から見た学生の学びと成長の検討：正課・正課外のバランスのとれた活動が高い成長を示す，京都大学高等教育研究 15, pp107-118, (2009)

(4) 河井 亨：学生の学習と成長に対する授業外実践コミュニティへの参加とラーニング・ブリッジングの役割，日本教育工学会論文誌 35(4), pp297-308, (2012)

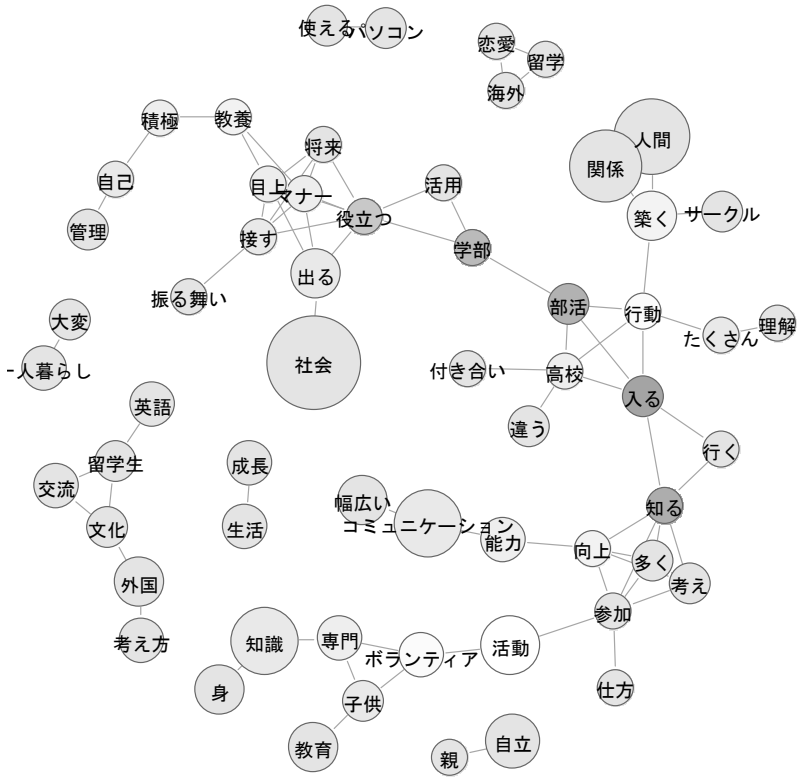

図１　「大学生活の中で学びたいこと」共起ネットワーク

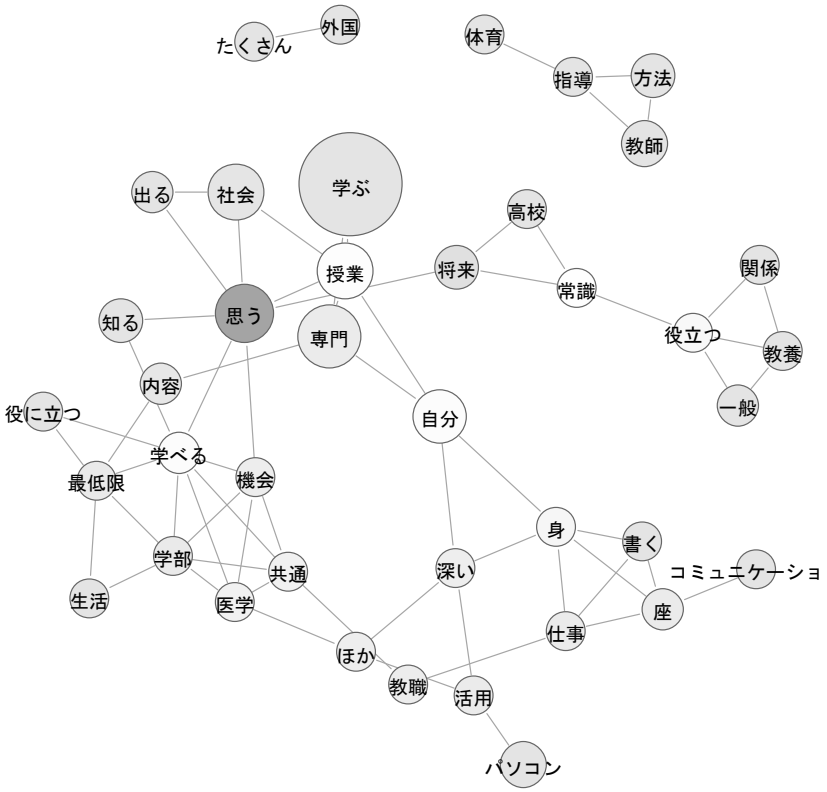

図２　「大学の授業で学びたいこと」共起ネットワーク